

## 道 三 ま つ り

斎藤道三という人物が見直され、その遺徳をしのぶ『道三まつり』が岐阜まつりとあわせて行われるようになったのは昭和48年（1973年）からです。

そのきっかけとなったのは昭和48年1月から始まったNHKのドラマ「国盗り物語」で、これを契機にドラマの舞台となる岐阜をPRしようというものでした。

斎藤道三にちなんだ催しがはじめて行われたのは昭和47年の信長まつりからですが、「国盗り物語」は昭和48年の岐阜まつり（4月4,5日）の頃、道三最後の登場場面を迎えることから、同年は道三関係の行事を信長まつりから切り離して岐阜まつり協賛として実施し、ブームを盛り上げることとなりました。これが『道三まつり』の始まりです。

この年は、道三の菩提寺でもある常在寺（岐阜市梶川町）で「斎藤道三公追悼法要」などが行われ、多くの人出でにぎわいました。

これを第1回として、毎年岐阜まつりの協賛行事として開催され、その後「歩行者天国」など多くの行事も加わり一層華やかさを増すこととなりました。

また、昭和51年（1976年）第4回開催時には青年会議所がみこしを担ぎ出し、これがきっかけとなり今日の「みこしパレード」が形成されることとなりました。

こうして岐阜まつりにあわせて、毎年4月4・5日の両日行われてきた『道三まつり』も、平成8年（1996年）第24回から4月の第一土曜・翌日曜の2日間に日程を変更し、開催されています。